



第72回「社会を明るくする運動」

社会を明るくする運動は、法務省が主唱する犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築くための全国的な運動です。

川上地区では例年強調月間の7月に秋葉町内会館で「川上地区の集い」を開催してきましたが、本年度も昨年度同様感染拡大防止のため「川上地区の更生保護活動」をテーマにした座談会を紙面でお伝えすることで集いに代えます。

【今年度のポスターのストーリー】

生きづらさを感じていたとき、保護司からの
大丈夫。世界は広くて、温かくて、
私もいるんだから、きっと大丈夫。



の言葉をきっかけに更生に成功した女性社長のストーリーです。
法務省のホームページをご覧ください。（QRコード）

https://www.moj.go.jp/hogol/kouseihogoshinkou/hogo03_00103.html



座談会 川上地区の更生保護活動

秋葉町内会館に川上地区保護司の鈴木浄元さんをはじめ行政、地区社協、町内会の下記出席者により「川上地区の更生保護活動」をテーマに座談会を開催しました。

出席者（略敬称）川上地区保護司 鈴木浄元、前 川上地区保護司 伊藤紀子、川上地区社協会長 加藤光彦、川上地区社協副会長・前田町町内会会長 高嶋威男、川上地区更生保護女性会会長・民児協会長 對馬美知子、川上地区連合町内会会長 藤井克彦、秋葉町内会会長 有賀 勉、戸塚区役所 川上地区連携チームの課長 金森裕一、戸塚区社会福祉協議会事務局長 安部 力、東戸塚地域ケアプラザ所長 新垣孝典

（保護司には守秘義務があるため、対象者等を特定できるようなお話はありませんでした）



加藤（司会進行）一昨年は社会を明るくする運動70周年で「歴史を振り返る」、昨年は「活動の内容」をエピソードを交えてお話いただきました。今年もコロナ禍が続く3回目の座談会となりました。今回は「更生保護活動」に加え「犯罪を未然に防ぐ地域の防犯と安全について」もお話いただきました。（以下要約です）

仕事につくことが大切

鈴木：コロナ禍ですが、対象者との面談は変わらず月に2回くらいおこなっております。出向いていくというのは余りなくなって、来て頂いて、密にならないところで30分から40分くらいお話をしています。対象者が今現在どんな生活をしているか、変化はないかなど。特に「仕事について」聞くことが多い。先ず仕事についてもらい、真面目に仕事をしてもらうことが一番大切なことです。収入面ではぎりぎりかもしれませんが、その中で生活をしていって社会復帰してもらうことが大切です。収容施設から出てきてスマホに戸惑っている。施設の中ではスマホは使えませんが、出てきたら就職するにもスマホがなければできない。一方少年犯罪もスマホでやりとりされるなど、大変な時代だなと実感しています。



やり甲斐のあるボランティア

伊藤：私がやっていたころは、小さな団地でしたから面談にも気を遣いました。戸塚区や町内会館も頼むと使えるのですが面倒なのでつい安易な方に。レストランで面談すると「今度は中華料理店が良い」とか「ステーキが食いたい」とか。「働き始めたが一日でくびになった」など遠慮無く話す。お金があれば使っちゃうから



「先生、金貸してくれ」「3日食べてないから」「彼女が妊娠してお金が必要」など、なんせ口がうまい。そういうときは親と連絡して立替えて親から送ってもらう。時代の流れで、以前は「暴走族」「性的

保護司とは：保護司は犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支える民間のボランティアで、保護司法に基づき法務大臣から委嘱された非常勤の国家公務員（無給）です。保護観察官と協働して保護観察に当たるほか、犯罪や非行をした人がスムーズに社会生活を営めるよう、釈放後の住居や就業先などの帰住環境の調整や相談も行っています。

保護司の仕事：毎月(2-3回)保護観察対象者と面談し、生活状況など相談・指導・助言し、毎月「報告書」を保護観察所に提出。問題が起きたときには保護観察官のアドバイスを受ける。地域の保護司会に出席、「社会を明るくする運動」など犯罪予防活動も実施しています。(法務省ホームページより)(再掲)

犯罪」「集団でサラリーマンを襲う」などありましたね。10人くらい担当したこともありましたが、今は収まっています。

保護司をやって心を開かなかった子が開いてくれる、そういうのがすごくありがたい。騙しているなど分かっても黙って2回くらいは騙される。3回目くらいに言うと「先生、知ってたの」「何十年もあなたより長生きして、分からないわけないでしょう」保護司は悪いことをしてご縁ができるものですが、長いお付き合いをするという意味では、やり甲斐があると私は思いました。

協力雇用主制度：今年のポスターにも似たストーリーが



藤井：保護司は大変なリスクのある役職なので、行政もバックアップしてもらわないと。保護司が再就職先を探すのは大変ですので、受け入れ側の経営者が理解しているところを、行政に情報提供をやって頂く必要がある。

伊藤：保護観察所、保護司会の中に「協力雇用主制度」というのがあります。ご自分も少年院に入った、刑務所に入った、という人が会社を立ち上げて、今は人を使って事業を営んでいるところもある。「いい人がいたら使ってやっても良いよ」と言う会社もある。私は戸塚区の協力雇用主担当をやっていたので、会社から希望があると保護観察所から会社が紹介されるので、実際に会社を見に行きました。会社の近くの人から評判を聞くこともありました。

更生保護施設を訪問

對馬：川上地区では現在「更生保護女性会」のメンバーが15名います。女性の民生委員が皆なってくれていますし、



民生委員 OB もなってくれています。コロナ禍で何もできないですが、さきごろ戸塚区の更生保護女性会で港南区にある更生保護施設「まこと寮」を、着るものとかタオルとか歯ブラシなどを持って訪問しました。綺麗な施設でした。コロナ禍で住所が定まらない方のワクチンも打てなくて大変だったとのこと。お部屋も見せて頂いたのですけれども、自分達で掃除などもされ、きちんと生活しているなという印象でした。そこから仕事にも行かれています。住宅地の中の施設なので、スタッフの方も気を遣っていらっしゃいました。



「街を綺麗に」地域の防犯と安全について

有賀：秋葉町では「防犯パトロール」を実施しています。防犯灯が切れていないかなどの点検をやるので、夜暗くなってから 4, 5 人で約 1 時間かけて、秋葉小学校校区と川上小学校校区を別々にパトロールしています。

防犯灯が切れているところを修理するという直接的な成果がありますが、パトロールする人たちが自分の街を見て回ることで、防災という目で見直す機会でもあると思います。

警察の刑法犯統計を平成 27 (2015) 年から今年(2022)まで調べたところ、かつて秋葉町で年に 23 件の刑法犯があった年もありましたが、昨年 3 件、今年 2 件と激減してきています。秋葉町だけでなく、戸塚区も減少傾向にあります。

防犯に効果がある身近な方法は、街をきれいにすることだと言われています。私たちの街をきれいにすることで、より安心、安全な街をつくりたいと思います。

防犯灯設置などで空き巣被害ゼロに

高嶋：犯罪抑止活動として、前田町では、だいぶ前から町内会の皆さんに防犯の標語を出してもらい、この中から 3 つを選んで防犯ポスター、幟（のぼり）をつくっています。幟は年 3 回揚げたり降ろしたりしています。防犯ポスターは毎年一回新しい班長さんに自宅前のフェンスなどに掲示してもらいます。



以前、前田町では空き巣が多かった。大体狙われるところが決まっていた、その地区はほとんどの家が空き巣に入られている。そこで夜のパトロールを始めました。大体空き巣は昼間に調べておいて、夜 8 時頃から暗くなってから入る。対策として「補助錠」をお勧めしていたことがありました。空き巣は大体 5 分間の内に仕事をするとされていて時間がかかると諦める。

それから、空き巣の入るようなところは結構暗いので防犯灯を設置して明るくした。大体空き巣は裏から入るので、裏の方もパトロールで回る。そんなことをやっていたら、空き巣被害はほとんどゼロになりました。

地域とともに街の安心安全を

金森：地域の中での社会を明るくする運動との関わりは、以前北海道下川町に高嶋会長と 7 月に出張したとき、下川町では子供から大人まで、社会を明るくするんだぞ、というパレードをして、町の人総出でした。戸塚区でも下川町のように大人から子どもまで多くの方々が関わっていただけると良いなと思います。



区役所で「まちの安心・安全担当」していたとき、地域の人と防犯パトロールとか、青少年指導員と夏休みの夜間巡回などの活動をしたことがありました。そうした活動がなぜ盛んになったかと言うと、昭和 57-8(1982-3)年頃に中区周辺で中学生が路上生活者を襲って、殺人まであったことがありました。それをきっかけに中学校区の地域と小中学校が「学校・家庭・地域協働事業」において「清掃」「花植え」「音楽」等を協働で行い「社会を明るくしよう」と取り組んでいただいております。地域の方が一生懸命やっ

てくださったおかげでよくなりました。私が現在所管している保育園では、小さい頃から自分の身は自分で守るという防犯・防災の実地の訓練もやっています。

減らないオレオレ詐欺 一人で抱え込まず 誰かに相談を

有賀：有賀：刑法犯罪の中で気になるのが「オレオレ詐欺」で、秋葉町では8年間で7件、今年も1件発生しています。地区の防犯指導員（警察署からの委託）をやっていますが、先日東戸塚の駅前で防犯キャンペーンを行なった時、非常に対照的なお二方にお会いしました。高齢の男性は「おれは絶対にオレオレ詐欺には引っかからない。そんなのに引っかかるヤツの気が知れない」と言っていました。一方、高齢の女性は「私はきっと引っかかる。非常に心配だ」と言っていました。どちらの方が本当に危険なのでしょうか。自信は大切ですが、謙虚さ、注意深さも必要なのではと思いました。

高嶋：前田町でもしょっちゅうPRして引っかからないよう言うが、やはり引っかかる人がいるんですね。最近手が込んでいます。「私はかからない」という人ほどかかりやすい。逆手を犯人はつかっていますので。注意している人は何かあると相談に来るんですね。自分は大丈夫だという人は自分で手を打ったりして詐欺にかかる。昨年は前田町全体で5件ですよ。対策として、私は固定電話にはあまり出ず、留守電にしています。大体携帯電話でやりとりしています。

新垣：身内の話になるのですが、実は私の父が郷里で保護司をやっていたことがありまして、80歳位なので引退しております。その父が以前 オレオレ詐欺に引っかかりそうになったことがありました。中身は割愛しますが最終的に相手から振込先の銀行口座を伝えられ、父親が、たまたま私と父親だけが知っている口座を使うと言ったら 被害にあわなかった。これの大事なポイントは「日頃から話をすることができていたから」だと思っています。



更生と予防を両輪で

安部：本日は地域での様々な取り組みについて、幅の広いお話をうかがい勉強させて頂きました。自治会町内会で防犯に力をいれてくださった成果として、防犯灯の設置や夜のパトロールにより、実際に犯罪件数の減少したお話を伺い、地域ぐるみの取組の大切さを実感しました。「更生させること」「予防につなげる地域を作っていく」ことが車の両輪のように進められると、安全で安心なまちとなると感じました。区社協は、保護司会と更生保護女性会の支援者として、これからも更生保護活動の推進に協力したいと思います。



おしらせ・予定



町内会の「夏まつり・夏祭り」再開

川上地区の2町内会は下記日程で「夏まつり・夏祭り」を再開します。いずれも町内会から配布の開催案内に付いている「抽選券」で豪華景品が当たります。（町内会以外の方も歓迎ですが、抽選には参加できません）

前田町町内会の夏まつりは 7月16日土曜 14:00～18:00 川上小学校校庭（雨天：翌日に順延）

秋葉町内会の夏祭りは 7月30日土曜 16:00～18:00 秋葉小学校校庭（雨天：同体育館）



以前の様子

バックナンバーは戸塚区社協ホームページ または QRコード
のリンク先をごらんください。



作成費の一部に赤い羽根共同募金からの助成金が使われています。



じぶんの町を良くするしくみ。
赤い羽根共同募金